

文字摺通信

第 83 号
2025年 3月 1日
発行:文字摺歴史文化社

横穴式石室がそっくり残り、見学できる

岡部の日向2号墳を市指定史跡に

このところ古墳に関係することが度々ありました。昨年11月に西学習センター主催のヒストリーウォークで案内役を務めた折、八幡塚古墳と稲荷塚古墳を見てきました。ともに5世紀から6世紀にかけての帆立貝式古墳で墳丘がきれいに残されています。鳥川地区に対抗するわけではありませんが、わが東部地区も古墳の宝庫です。阿武隈山地の麓（福島盆地の東縁）、岡島・山口・岡部には6世紀末から7世紀にかけての古墳が多数あります。中でも目玉ともいべき古墳は福島市内唯一の前方後円墳、上条1号墳です。ただ残念なことに宅地開発のためか、元の形がきれいに残ってはいません。この上条1号墳の近くに日向2号墳があります。

文知摺地区歴史研究会では、日向2号墳を整備して見学会を開こうと企画しましたが、その位置がなかなか掴むことができずにいましたが、以前に発掘調査をし、報告書を執筆した柴田俊彰氏から「トタン屋根があるからわかります」と助言を受け、この正月にその位置を確認し、写真を撮ってきました。

この日向2号墳については、『福島市文化財調査報告書第17集』（昭和50年）に詳しく書かれています。以下、報告書から概要を説明します。

日向2号墳は7世紀後葉～8世紀前葉に築造された円墳（直径約10m、墳丘の高さは約3.6mでしたが、墓地の造成などにより墳丘部分は削土され原形を保っていませんが、上記写真のように石室がそっくり残っており、福島市内ではここだけと思われますが、外側から石室が概観

